



ADEKA report

2025

統合報告書

株式会社ADEKA

〒116-8554 東京都荒川区東尾久七丁目2番35号
<https://www.adeka.co.jp>

お問い合わせ先

法務・広報部
TEL: 03-4455-2803 FAX: 03-3809-8210
e-mail: somu@adeka.co.jp



202509J02



ADEKAグループコーポレートスローガン



私たちの扱う素材を、身のまわりの様々なところにプラスすることで、“暮らしをより良く”している様子をコーポレートカラーの積み木に見立てて表現しています。

コーポレートスローガンに込めた想い

『Add Goodness』は、当社のビジネスそのもの、そして姿勢をあらわした言葉です。ステークホルダーの皆様には、ADEKAがどんな会社であるのかを、もっと知ってもらうために、この言葉を産み出しました。

『Add Goodness』を直訳すれば「良きものを足す」です。

ADEKAグループは素材メーカーです。私たちが扱う素材の「材」は、材料の「材」ではなく、財産の「財」と捉えています。汎用製品から最先端製品に至るまで、ADEKAグループの製品・サービスは、原料から製品をお客様にお届けし社会でお役に立つまで、ADEKAグループの一人ひとりが「良きものを足した」結果の『素財』であると、私たちは信じています。

川上から流れてきた原料は、我々を通過して川下に行くのではない。

『Add Goodness』することで『素財』となり、人々の豊かなくらしに資するものになる。人々の豊かなくらしを支えているものが、ADEKAグループの『Add Goodness』だと認識できたら、これほど最高なことはありません。

CONTENTS

ADEKAの価値創造ストーリー

- 1 コーポレートスローガン/目次/編集方針
- 3 ADEKAグループ経営とビジョン
- 5 社長メッセージ
- 11 ADEKAグループ 価値創造の歴史
- 13 At a Glance/グローバルネットワーク
- 15 ADEKAの価値創造ストーリー
- 17 重要な経営資源
- 19 サステナビリティの推進と中期経営計画
- 21 中期経営計画「ADX 2026」
- 25 財務・資本政策
- 29 ADEKAのビジネスモデル
- 31 ADEKAの研究開発
- 33 ADEKAの生産技術
- 35 事業活動とアウトプット

ADEKAの成長戦略

- 稼ぐ力(事業戦略)
- 39 樹脂添加剤
- 41 半導体材料
- 43 環境材料
- 45 食品
- 47 ライフサイエンス
- サステナビリティ
- 49 環境への対応
- 53 人権の尊重
- 55 人財活躍の機会拡大(DE&I)
- 経営基盤
- 57 人的資本強化
- 63 コンプライアンス
- 65 リスクマネジメント
- 66 DX推進とサプライチェーンの強靱化

コーポレートガバナンス

ADEKAグループ経営とビジョン

ADEKA グループ 経営理念

当社グループの企業使命は、先端技術による素材製品とソリューションの提供を通じ、企業としての持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を図り、もっと豊かなくらしと持続可能な社会づくりに貢献することです。

その実現のため、以下の2つを経営理念として掲げています。

新しい潮流の変化に鋭敏であり続けるアグレッシブな先進企業を目指す 技術優位な製品群による事業展開で競争力のある先進企業を目指します

1

世界経済、市場、顧客ニーズの変化や技術の進歩など、環境の変化を鋭敏に捉え、環境・エネルギー問題、健康、食の安心・安全など、化学・食品メーカーに課せられた新しい課題に対応しながら、先進技術を積極的に駆使し、他社に先駆けて社会に役立つ価値を創造します。
これからも、本業による社会貢献を通じ、社会から必要とされる企業を目指します。

世界とともに生きる

グローバルな事業展開を加速します

2

お客様や他の取引先など、ビジネスパートナーの皆様をはじめとする世界中のさまざまなステークホルダーの利益に配慮した健全な経営を行い、ステークホルダーとの協力関係を築きながら、社会課題の解決に役立つ製品やサービスを提供することにより、国際社会・地域社会の持続的な発展に貢献し、社会との共存共栄を目指します。

ADEKAグループ 行動憲章

1. 本業を通じた持続可能で豊かな社会づくりへの貢献
2. 法令の遵守と社会倫理に則った公正・透明な企業活動
3. 適切かつ公正な情報開示
4. 環境の保全
5. 安全で高品質な製品・サービスの提供
6. 働きやすい職場環境
7. 社会・ステークホルダーからの信頼確保のための友好的かつ積極的なコミュニケーション・社会貢献活動
8. 健全で持続的な発展と社会への還元
9. 反社会的勢力の排除
10. 危機管理の徹底
11. より良い社会の実現に向けて

詳細はウェブサイトをご覧ください。▶ <https://www.adeka.co.jp/company/philosophy.html>

ADEKAグループは、公正・透明な企業活動を通じて、「技術」と「信頼」でステークホルダーの期待に応え、持続可能な社会に貢献します。

ADEKA グループ サステナビリティ 基本方針

サステナビリティマネジメント

ADEKAグループは、サステナビリティ基本方針のもと、社員一人ひとりがサステナビリティを意識し、サプライチェーン全体で企業の社会的責任を果たすとともに、様々な社会課題に対し、“素材”メーカーとして価値を提供することを目指しています。さらには変化し続けるステークホルダーの期待に応え、本業を通じて持続可能な社会に貢献することで企業価値を高めていきます。

社長メッセージ

上場子会社である日本農薬が担うライフサイエンス事業では、現在の海外ネットワークを活用し、市場の成長が著しいアジアや中南米でのビジネスを拡大させます。日本農薬を ADEKA グループに迎え入れた 2018 年から現在までの 7 年間、同社が描く成長戦略に沿って、シナジー発現に努めてきましたが、現状の利益構造には必ずしも満足していません。今後は収益力の強化に向け、スピード感をもって対応を進めていくとともに、資本効率のさらなる向上に

世界がどう変わろうとも、 会社として進むべき方向性は 一本筋の通ったものであるべき そのために多様性を取り入れる

■サステナビリティの推進



世界各地ではさまざまな紛争が起き、先が見通せない状況下にあります。こうした変化の激しい時代にあり、5 年後、10 年後のビジネスを論じること自体、あまり意味をなさないという考え方もあります。ただ私自身は、どのような時代を迎えようと、企業が進むべき方向性というものは、一本筋の通ったものであるべきと考えています。その意味では、掲げたサステナビリティ優先課題に対して真摯に取り組み、その成果を着実に上げていくことは極めて重要です。会社の進むべき方向性に「筋を通す」ために必要なことの 1 つが多様性です。会社としての考え方を硬直化させないために、さまざまな考え方を持つ人財を集め、健全な判断につなげていくことが重要です。当社グループでは、女性

も力を注ぐ考えです。

中長期の成長を見据えて事業を進めていくうえでは、やはりお客様とともに歩み、良い時も悪い時も経験しながら目線を合わせていくことが大切なのだと思います。お客様とともに何が重要であるのかを考え、行動を起こすことが、中長期的な成長を実現させる最善の方法であると信じています。

活躍に重点を置いた DE&I の取り組みについて、KPI を掲げて推進しています。

人権に対する配慮も重要です。倫理的な観点からの重要性もちろん感じますが、人権を尊重することに配慮しなければ、企業経営自体が立ちいかななくなるという危機意識を持

At a Glance/グローバルネットワーク

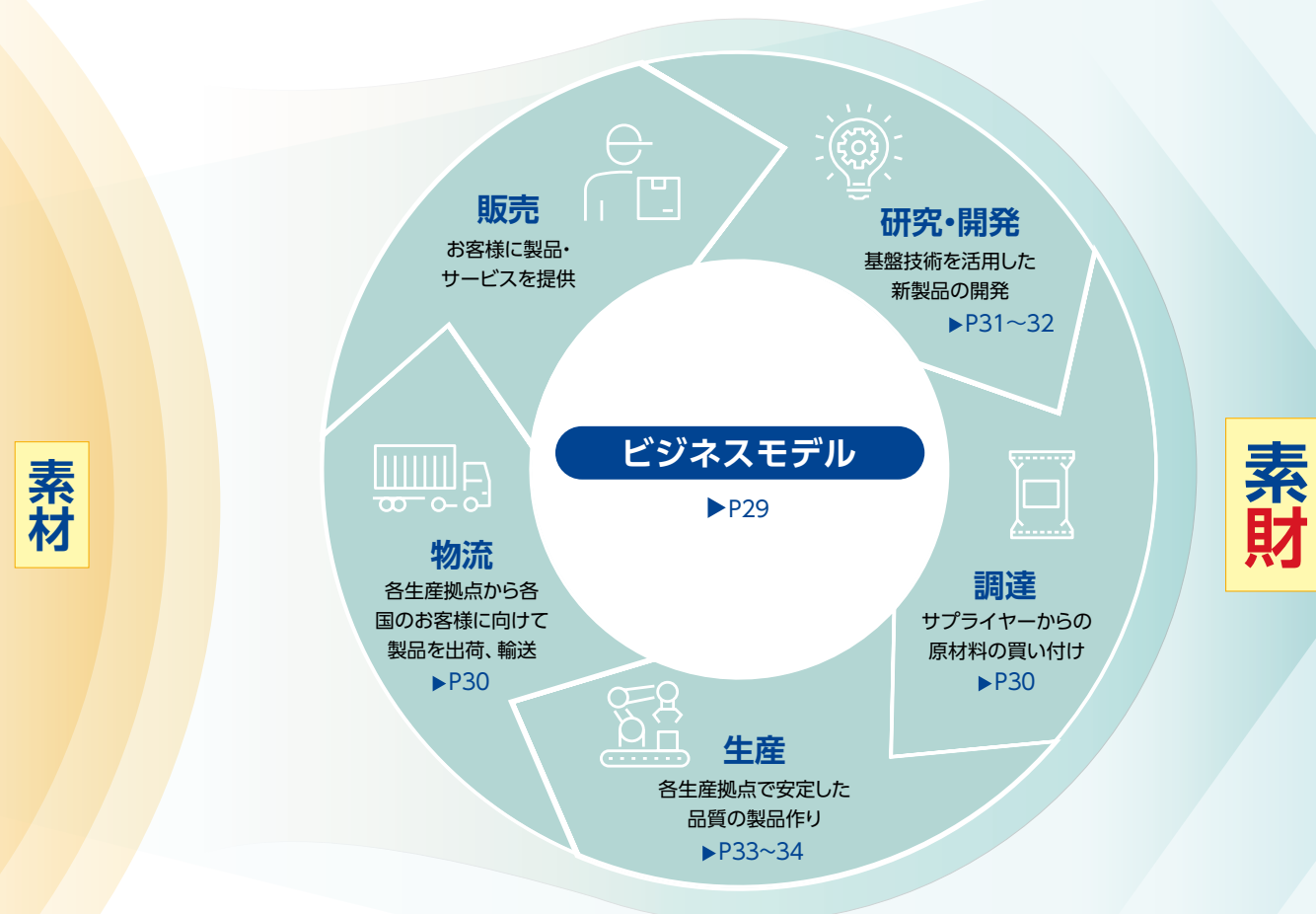
At a Glance
数字で見るADEKA

くらしを支えるADEKA



ADEKAの価値創造ストーリー

素材に、さらなる機能性や耐久性、環境性能をプラスする。そして、素材を「素財」に変える。
先進的な素財とソリューションを提供することによって、お客様とともに新しい価値を創造していきます。



ビジネスパートナーとの共創×信頼×技術力

成長戦略

サステナビリティ
優先課題への対応

▶P19～20

中期経営計画
「ADX 2026」

▶P21～24

重要な経営資源(6つの資本) ▶P17～18

財務資本 | 人的資本 | 知的資本 | 製造資本 | 社会・関係資本 | 自然資本

重要な経営資源

ADEKAグループの持続的成長を支える重要な経営資源についてご紹介します。



知的資本

■ 価値創造との関連

素材を『素財』に変える。それが研究開発部門の使命です。ADEKAの全従業員の約1/3を占める研究員は、コーポレートスローガン“Add Goodness”を胸に、幅広い事業活動のなかから既存事業の拡大、新規事業創出を目指し、多様な研究テーマに取り組んでいます。基盤技術をベースに、研究開発部門での連携やサプライチェーン上の関連企業、国内外大学との共創によって、新製品や新しいソリューションの創出にチャレンジしています。

■ 特徴

革新的な技術力を生み出すためには、新たな発想を積極的に取り入れる必要があります。当社は、暮らしを豊かにする“素財”を幅広い分野に提供しており、そこから得られる情報や技術を横断的に研究所間で共有しています。その広い研究開発領域から、また新たな革新的技術を創出する。これこそが、まさに当社の知的資本の特徴であると考えます。



中期経営計画「ADX 2026」

中期経営計画「ADX 2026」について

『ADX 2026』は、ADEKAグループとしての2030年のありたい姿『ADEKA VISION 2030 ～持続可能な社会と豊かなくらしに貢献する Innovative Company～』の実現に向けて、変革を続ける3年間と位置付け、成長戦略としてサステナビリティを推進し、社会価値の創出を通じた稼ぐ力の強化を図ります。

また、環境貢献製品の拡大やカーボンニュートラルの実現に向けたGHG排出量削減の推進に努め、より強靱な経営基盤のもと企業価値のさらなる向上を目指してまいります。

位置付け

- ADEKA VISION 2030の実現に向けたセカンドステージ
- 利益と効率性に重点を置き、稼ぐ力を高める3年間
- 成長戦略としてサステナビリティを推進し、さらなる変革を実行する3年間

ADEKA VISION 2030
～持続可能な社会と豊かなくらしに貢献する
Innovative Company～

Back Cast

ADX 2023

社会価値 + 経済価値
(営業利益と社会価値の最大化)

ADX 2026

成長戦略として
サステナビリティを推進

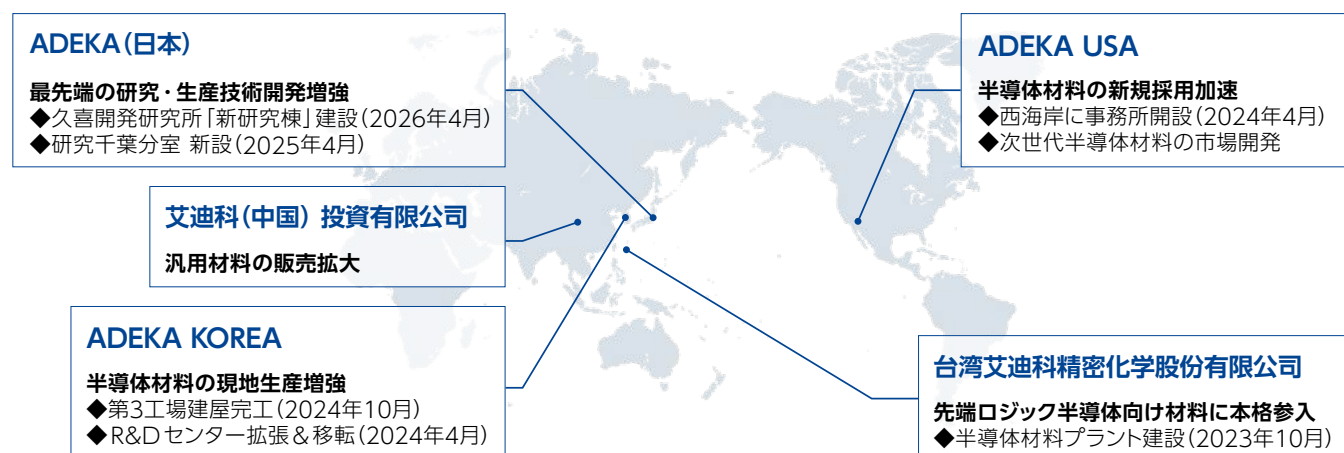
基本方針

情報・電子材料分野の拡大

当社は、成長分野へ経営資源を集中させ、技術力と生産能力のさらなる向上を図っています。2024年度から2025年度にかけて、特に情報・電子材料分野において積極的な設備投資と人員の増強を実行しています。

■半導体材料エリア別事業展開

日本・韓国で獲得した事業ノウハウを活かし、台湾・米国へ展開



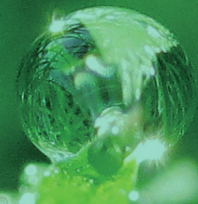
■半導体材料本部の設立 組織改定/事業本部制のねらい

半導体市場にフォーカス 経営資源を集中



連結11年間財務サマリー/財務・非財務ハイライト

	15/3月期	16/3月期	17/3月期	18/3月期
売上高(百万円)	205,890	222,746	223,440	239,612
営業利益(百万円)	14,009	19,300	21,041	21,335
営業利益率(%)	6.8	8.7	9.4	8.9
経常利益(百万円)	16,506	19,569	21,846	22,337
親会社株主に帰属する当期純利益(百万円)	11,183	13,259	15,325	15,346
純資産額(百万円)	163,233	170,586	187,956	205,088
総資産額(百万円)	261,112	270,038	290,485	312,152
1株当たり純資産額(円)	1,519.25	1,581.14	1,751.20	1,910.23
1株当たり当期純利益(円)	108.28	128.38	149.03	149.18
自己資本比率(%)	60.10	60.48	61.99	62.99
ROE(自己資本利益率)(%)	7.47	8.28	8.93	8.15
ROA(総資産利益率)(%)	6.6	7.4	7.8	7.4
ROIC(投下資本利益率)(%)	—	—	—	—
営業活動によるキャッシュ・フロー(百万円)	17,419	23		



環境会計

環境保全コスト 単位：百万円（単位未満四捨五入）

分類	主な内容	環境保全費用	環境投資額
(1) 事業エリア内コスト			
① 公害防止コスト	大気・水質・土壌・騒音・振動・悪臭・地盤沈下等の防止	1,776	227
② 地球環境保全コスト	地球温暖化防止（省エネ）、オゾン層破壊防止	533	442
③ 資源循環コスト	廃棄物の発生抑制、削減、リサイクル等の資源循環	689	47
(2) 上・下流環境負荷抑制コスト	グリーン購入、容器包装の環境負荷低減、製品の回収・再商品化	9	0
(3) 管理活動コスト	環境ISO、環境情報開示、環境負荷監視、緑化	94	4
(4) 研究開発コスト	環境保全に関する研究・開発費	641	102
(5) 社会活動コスト	事業所外の緑化・美化、環境保護団体への寄付・支援	4	2
(6) 環境損傷コスト	水質・土地汚染等の浄化、自然修復	2	0
合計		3,750	823

環境保全効果

環境保全効果の分類	環境パフォーマンス指標	単位	2023年度	2024年度	対前年度比
事業活動に投入する資源	特定の管理対象物質投入量	t	18,559	19,533	105.2%
事業活動から産出する財・サービス	使用済み製品、容器、包装の循環使用量	t	857	931	108.6%
	容器包装使用量	t	4,990	5,300	106.2%
その他					



人権・人材

人財活躍の機会拡大

人事関連データ

対象：ADEKA単体

項目		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
当社平均所定外労働時間（月当たり）		14.6時間	13.7時間	13.4時間	13.3時間
短時間勤務制度利用数	男性	1名	1名	0名	2名
	女性	34名	32名	48名	24名
年次有給休暇取得率		69.6%	70.7%	79.9%	76.5%
リフレッシュ休暇取得率※		13%※	79%	81%	79%
育児休業取得率	男性	37.5%	49.1%	57.4%	86.8%
	女性	100%	100%	100%	100%
育児休業制度利用数	男性	27名	26名	31名	46名
	女性	12名	15名	8名	8名
介護休業制度利用数		2名	2名	0名	1名
介護休暇利用数		14名	16名	18名	29名
育児休業後の復職率	男性	100%	100%	100%	100%
	女性	100%</			

